

生活の中の“竹”を見直す

素材との出会い展～竹と造形（造形スタジオ）

“竹”は身近な植物の一つ。七夕飾りや門松などの飾り、うすくそいだ（“へぐ”と言います）竹を編んで作る「かご」や「ざる」などの実用的な道具類、越前竹人形のような民芸品。そして春を告げる味「たけのこ」を賞味したり——さまざまな形で“竹”は私たちの生活に結びついています。

私たちの暮らしの中でさまざまな形で使われている“竹”を見直そうと、造形スタジオでは「素材との出会い展～竹と造形」を行っています。筒のように中が空洞になっていて軽い、縦に割りやすい、表面がつるつるしている、曲げて元形にもどるなど弾力性に富んでいる——などの特長を持っている“竹”を使った造形スタジオの活動を紹介します。



竹の中には、竹についての豆知識がつまっています。

“竹”の生活用具がいっぱい

私たちの身の回りには、“竹”を使ったものがいろいろあります。例えば、野菜などを洗ったあとに水を切るために使う「ざる」——今は金属やプラスチック製のものにとって代わりましたが、以前はほとんどが竹製でした。竹くし、さいばし、まさすなど、今でも竹製の台所用品はたくさんあります。

このように生活に密着した“竹”。いろいろな竹製品（スタッフの手作り品も含む）を展示した「ふんぐや」「うちわや」「うつつわや」「かこや」「あそびや」などの店、そして春休みから商いをしている「たけや」が並ぶ「たけや横町」が造形スタジオの中に設けられます。

また、「竹職人の仕事場」や竹を使った造形作品を展示する「竹屋画廊」もあります。さらに、武蔵野美術大学民俗資料室所蔵の暮らしの中の竹製品100点あまりもあわせて展示します。



竹製の道具類。用途によって編み方もいろいろ。実用性とデザインの美しさをかねそなえた工芸品といえます。

いろいろな“竹”の造形プログラム

夏休みの造形スタジオ——誰もが遊べる制作コーナーでは、〈しなる〉〈さける〉〈筒のようになっている〉などの特長を生かした「作って遊べる竹のおもちゃ」など。夏休み一日造形教室では椅子や鳥かごのような実用的で個性的な道具作りを中心としたプログラムを行います。

バネのようにしなる

わっとび竹（親子）＝薄し竹ひごで作った鳥。弾ではしくだけでバネのように飛びます。
タケ・ラ・クラ（小～大）＝太いらな竹ひご。細い竹のこをしながら、さまざまな形を作り出します。



わっとび竹



タケ・ラ・クラ

足踏み機



足踏み機

〈筒〉＋〈かたい〉

卒度・とんだりはねたり（親子）＝半分に割ったかたまりの竹し編こまを巻き、そこに竹ひごを巻いてこまをよじります。自由に高くやが出来ます。
おしゃべり竹（小～大）＝太し竹を輪のりにして巻く。こまで止めます。切の口をこまの裏に合わせると、竹がしゃべり始めます。



おしゃべり竹



とんだりはねたり

機能を生かしたデザイン

一斬ざしの花器、ひしゃくなどは、竹の形をうまく利用したのも。竹を薄くそいで編み上げたかこやざるなどは、実用性と編み目模様などの美しさ（デザイン）の2つの面をもった生活用具です。竹のしなやかさ、つるつるした表面などが、巧みに利用されています。

“竹”の造形作品を「竹屋画廊」で展示

竹屋画廊では、「松本画廊」というタイトルで、“竹”を使った造形作家の松本秋則さんの作品（光と音と動きを楽しむ音具）を展示します。

「夏休み一日造形教室」参加者募集中

夏休み有期期間中の7月27日～8月28日の毎週六・日曜日の午前10時30分～午後5時、火・日をお休みして「竹の造形」に取り組みます（昼食は各自用意ください）。対象は、小学校3年生～高校3年生。定員は各日15人。受講料5,000円。プログラムの見本は造形スタジオ101にはるかに展示中。詳しくは、造形事業課【TEL:03-3277-5662】へおたずねください。

竹屋画廊に展示される松本秋則さんの作品「光と音と動きを楽しむ音具」

